

6号機、7号機の運転に当たって



(一) ▼武黒所長説明(要旨) 6、7号機の運転にあたって

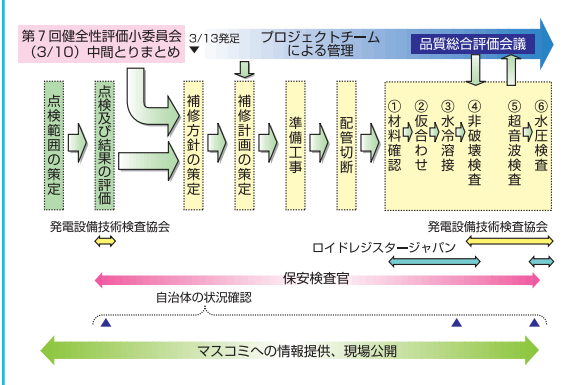
冒頭、榎本副社長から、当日、県、市、村の首長や行政当局並びに議会正副議長に、4号機起動前の国の検査をつつがなく終了したことの報告と起動したい旨の要請を行った旨、会に報告がありました。

その後資料に基づき、武黒発電所長から以下の説明がありました。

4号機の運転再開について (東京電力説明)

- ・ 起動操作を中心とした訓練 8回、研修13回
- ・ 「評価会議」延べ約900人

4号機再循環系配管の点検・保修の流れ



(二) 4号機の点検・補修(経過)

- ・ 1月7日から定検に入り、併せてシユラウドの点検と再循環系配管の点検・補修を実施
- ・ シユラウドはひびのないことを確認
- ・ 再循環系配管は6箇所にひびを確認、取替・検査を終了
- 点検・補修のポイント
- 徹底した品質保証・安全管理
- 客観性の確保 透明性の確保

プロジェクトチームによる品質保証活動

プロジェクトチームの目的
多面的な知見・評価

- ・ 工事手法の検討、事前評価
- ・ 検査(評価)方法の検討
- ・ 記録の採取/保存方法の検討
- ・ 工事途中の評価

計画段階での活動(例)

- ・ 実績(信頼性)のある工法を採用
- ・ 品質保証、作業性、放射線管理の観点から模擬試験を実施
- ・ 重点管理項目(45段階)を抽出
- ・ 第三者機関の関与を決定
- ・ 記録、媒体(映像を多く)の決定

追加進への計画・実施

時間管理の実施
内面水冷液溶接の模擬試験
硬化層除去の模擬試験

品質保証活動

再循環系配管の補修工事実績

点検・補修に携わった人数 延べ 9,000人工

<p>【点検：超音波検査】</p> <p>検査技能者：40人(平均20人/日)</p> <p>点検日数：50日</p> <p>延人数：1,000人工</p> <p>検査時間： ①ひびが無い継手 3~5時間/継手 ②ひびがあった継手 60時間/継手</p> <p>第三者機関確認回数：5回</p>	<p>【補修】</p> <p>溶接士 15人 継手数 11継手 延人数 150人工</p> <p>配管切断加工他作業員 補修工事日数 45日 延人工 7,850人工 第三者機関確認回数：4回</p>
<p>【工事期間中の不適合】</p> <p>点検・補修工事中の不適合件数：4件 (例)最も重要度の高い不適合 ・ 溶接作業中に、シールドガスの供給が止まり、溶接金属部にブローホールが混入(再溶接後に非破壊検査で健全性確認)</p>	<p>【作業中の線量】 個人max</p> <p>検査：322人mSv(8.6mSv) 補修：691人mSv(7.8mSv) 合計：1,012人mSv (計画値=1,210人mSv)</p>

再循環系配管の補修工事実績

4号機における国の厳格な検査

定期検査

国の指示：国の定期検査に関し、現在実施中の検査を含め至近の検査において、機能・性能に加え、検査実施手順や点検・補修記録の確認も行う等、特に厳格に実施することとする。(平成14・10・01原院第1号)

	起動前	起動後
立会検査	11件/13件	2件
記録確認	16件/16件	2件
自主検査の確認	15件/15件	2件

格納容器漏洩率検査

国の指示：点検計画に従って、当該機(福島第一1号機)に準じた厳格な検査を行うこととしている。(平成14・10・25原院第3号)

検査実績：国の保安検査官が準備段階から立ち会いを実施(漏洩率検査は検査官10名体制で実施)

査 4号機における国の厳格な検査

補修における客観性の確保

- 保安検査官による立ち会い、自治体による状況確認
 - 第三者機関による立ち会い
- 再循環系配管：勸発発電設備技術検査協会による超音波検査ならびに、補修後の放射線透過検査
- 溶接検査：ロイドレジスター・ジャパンによる、記録の確認と水圧試験の立ち会い
- ほか：使用前検査に準ずる検査として、保安検査官による記録の確認と水圧試験の立ち会い



客観性の確保